

市川團十郎代々

初代 市川團十郎（45歳没） 團十郎襲名 1675-1704

役者堀越重蔵の長男、1660-1704。荒事芸を創始。

初代市川海老蔵 → 初代市川團十郎

市村座で『わたまし十二段』の佐藤忠信役を演じている最中に、役者の生島半六に舞台上で刺殺された。享年45。

父は甲州出身で、異名を「面疵（つらきず）の重蔵」「菰（こも）の十蔵」と呼ばれた侠客だった。曾祖父は能係を務めた武田家臣で、堀越十郎が市川三郷町（旧三珠町上野）の地を領し、武田滅亡後に下総国へ落ち延びたという。祖父は成田市幡谷の出身と言われている。**[成田屋]**

二代目 市川團十郎（71歳没） 團十郎襲名 1704-1735

初代の長男、 1688-1758。

初代市川九蔵 →（1704年17歳で襲名）二代目市川團十郎 → 二代目市川海老蔵

父の死後面倒を見てくれた生島新五郎は大奥を舞台にした歌舞伎界の大スキャンダル絵島生島事件で濡れ衣を着せられる三宅島に遠島となる。

三代目 市川團十郎（22歳没）**養子** 團十郎襲名 1735-1741

二代目の養子、 1721-1742。実父は高弟の三升屋助十郎。

初代市川升五郎 → 三代目市川團十郎 22歳で病死した。

四代目 市川團十郎（68歳没）**養子** 團十郎襲名 1754-1770

二代目の養子（あるいは実子）、1711-1778。実父は芝居茶屋の和泉屋勘十郎。

初代松本七蔵 → 二代目松本幸四郎 → 四代目市川團十郎 → 二代目松本幸四郎

→ 三代目市川海老蔵

陰間茶屋を経営

五代目 市川團十郎（64歳没） 團十郎襲名 1770-1791

四代目の子、 1741-1804。

三代目松本幸四郎 → 五代目市川團十郎 → 三代目松本幸四郎 → 市川蝦蔵

→ 成田屋七左衛門（隠居名）→ 初代市川白猿（舞台復帰後）

六代目 市川團十郎（22歳没）**養子** 團十郎襲名 1791-1799

五代目の子、 1778-1799（早世）。22歳で病死した。

四代目市川海老蔵 → 六代目市川團十郎

七代目 市川團十郎（69歳没）**養子** 團十郎襲名 1799-1832

五代目の孫で六代目の養子、1791-1859。歌舞伎十八番を選定。

初代市川新之助 →（五代目）市川ゑび蔵 → → 五代目市川海老蔵 →

成田屋七左衛門（塾居謹慎時）→ 幡谷重蔵（旅回り）→ 二代目市川白猿

天保13年（1842）、天保の改革の旋風が吹き荒れるなかで奢侈禁止令により、海老蔵は突如江戸南町奉行所から手鎖・家主預りの処分を受け、さらに江戸十里四方処払いとなる。

八代目 市川團十郎（32歳没） 團十郎襲名 1832-1854

七代目の長男、 1823-1854（大坂で自殺）。

二代目市川新之助 → 六代目市川海老蔵 → 八代目市川團十郎 → 三代目市川白猿
美貌によって広い人気を集めたが、32歳のとき突如として自殺する
江戸北町奉行所から親孝行で表彰される。遠山影元(遠山の金さん)より

九代目 市川團十郎（66歳没） 團十郎襲名 1874-1903

七代目の五男、 1838-1903。「劇聖」と呼ばれる。

三代目河原崎長十郎 → 初代河原崎権十郎 → 七代目河原崎権之助 → 河原崎三升
→ 九代目市川團十郎

贈十代目 市川團十郎（75歳没）**婿養子** 團十郎襲名 1956 追贈

九代目の婿養子（長女・二代目市川翠扇の夫）、1882-1956。実父は履物商後東京市議の
稲延利兵衛。銀行員から役者に転身。

堀越福三郎 → 五代目市川三升 → 贈十代目市川團十郎（十一代目市川團十郎が告別式で追贈）
恋愛結婚で市川宗家に婿養子に入り、やがて宗家としての自覚から30近くになって歌舞伎役者
に転向した異色の人物として知られる。

十一代目 市川團十郎（57歳没） **養子** 團十郎襲名 1962-1965

十代目の養子、 1909-1965。実父は七代目松本幸四郎。

初代松本金太郎 → 九代目市川高麗蔵 → 九代目市川海老蔵 → 十一代目市川團十郎
53歳のとき、待望の十一代目團十郎を襲名

海老蔵後援会長・前田青邨（せいそん）氏が、千代さんを一旦養女にしてから結婚させる
作家宮尾登美子書の『きのね』を読めば、十二代目の生い立ちが分かる。どこで生まれたか？

十二代目 市川團十郎（68歳没） 團十郎襲名 1985-2013

十一代目の長男、 1946-2013。

市川夏雄 → 六代目市川新之助 → 十代目市川海老蔵 → 十二代目市川團十郎

初代芳澤あやめ、二代目市川團十郎の両人が最初の千両役者といわれ、
二代目團十郎が享保6年（1721）給金千両を得たことが千両役者の誕生といわれる。

芳澤あやめは千両役者以上の格であったとも言われる。

七代目が額堂を寄進する百年前に二代目は千両役者となる。

十代目は甲州出身説をとり、山梨県西八代郡三珠町を市川團十郎家の発祥の地と認定した。

「市川團十郎発祥の地」の碑 三珠町歌舞伎文化公園

成田市幡谷 1045 東光寺 には「市川團十郎居住地」の碑がある。

江戸三座（えどさんざ）

江戸時代中期から後期にかけて江戸町奉行所によって歌舞伎興行を許された芝居小屋。

江戸には当初数多くの芝居小屋があったが、次第に整理されて中村座・市村座・森田座・山村座
の四座に限って「櫓をあげる」ことが認められた。これを江戸四座（えどよんざ）という。

しかし山村座は座元が江島生島事件により伊豆大島に遠島となり廃座これで江戸三座となる。